

1. 現行プランの概要

次の三つの柱に沿って、今後の推進すべき施策を明示

- 東京の魅力の世界に発信
- 観光資源の開発
- 受入体制の整備



オリンピック招致を契機に活力と風格ある世界都市・東京を実現

- ・5年後には
外国人旅行者 年間 700万人、国内旅行者 年間 5億人の誘致を目指す。

2. 現行プランの取組による成果

(1) 東京の魅力の世界に発信

- シティセールス・東京観光レップ等の取組による旅行者数の増加
- ウェブサイトの多言語対応による情報提供で、訪都旅行者の増大に寄与
- コンベンション誘致活動により、国際コンベンション開催件数の回復
- 東京マラソン・東京国際アニメフェアをはじめとした国際的イベントの認知・定着

(2) 観光資源の開発

- 水辺の広域的な活用により観光地としての魅力の向上
- 区市町村観光担当課・観光協会の設置増など地域における観光への取組の強化
- ロケ地としての東京の魅力を国内外にアピールし、外客誘致と地域の振興に寄与

(3) 受入体制の整備

- 案内サイン標準化指針の策定により、都内の観光案内標識デザインの標準化
- 外国語メニューの標記の普及を図り、旅行者を迎え入れる対応サービスの向上
- 「全国観光PRコーナー」の開設などにより、地域と一体となった国内観光行動の活性化

3. 情勢の変化

(1) 観光ビッグバン(大流動時代)の幕開け

- ・世界中での外国への旅行者の増加、中国観光ビザ解禁・要件緩和

(2) 旅行者の嗜好の変化

- ・団体旅行から個人旅行、Sightseeing→tourism(体験型)等へと観光ニーズの多様化

(3) 羽田空港の国際化・成田空港の機能向上

- ・国内外からの交通アクセスの改善(羽田・成田空港の便数の拡大)

(4) 国を挙げた観光への取組強化

- ・「観光庁」の設置、新成長戦略における7つの戦略分野の1つが観光立国

(5) 国内における観光を取り巻く状況変化

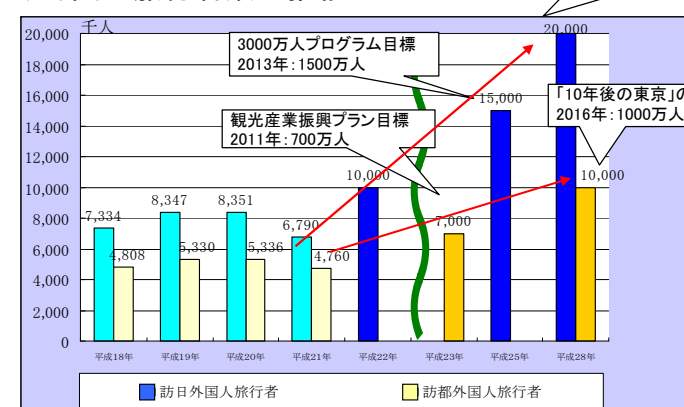
- ・地方空港拡散による国内競争の激化、大型連休のブロック別分散化、高速道路無料化への動き、東京スカイツリーの開設、東京国体の開催(2013年)

(6) メディアの多様化

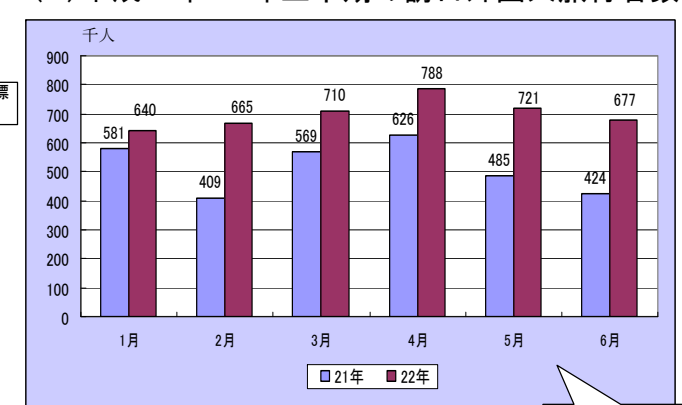
- ・価値観の共有、情報の多様化

4. 観光等を取り巻く状況

(1) 外国人旅行者数の推移



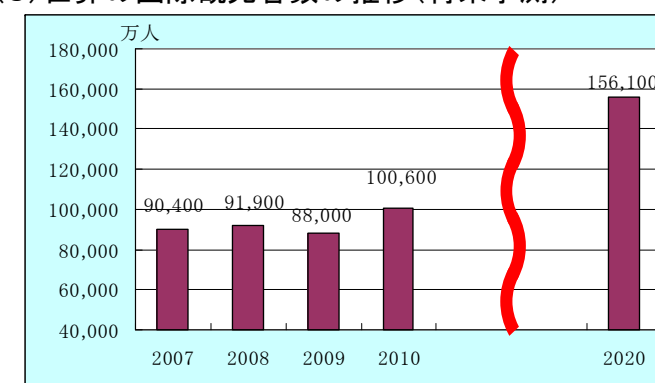
(2) 平成21年・22年上半期の訪日外国人旅行者数



(資料:JNTO)

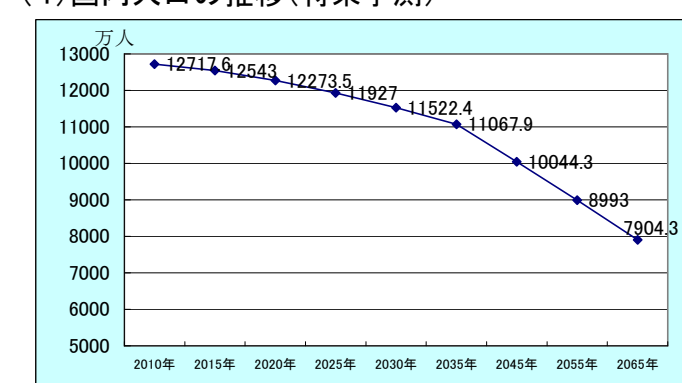
上半期累計 前年対比 約35%増

(3) 世界の国際観光客数の推移(将来予測)



(資料:世界観光機関(UNWTO)、提供:JNTO)

(4) 国内人口の推移(将来予測)



(資料:総務省統計局)

観光振興＝交流人口の増大、消費の拡大による産業の持続的発展が不可欠

諮問の視点

- 観光を重要な柱とした産業振興・活力の向上
- 都内を訪れる旅行者目線
- 行政・民間・都民等との一体的な取組
- 何度も訪れたい都市・東京

5. 諮問テーマ

「東京の活力向上を図る観光振興の戦略的な取組について」

東京都観光産業振興プラン

(平成19年3月策定)

- 計画期間 : 平成19年(2007年)～平成23年(2011年)
- 目標 : 外国人旅行者 年間700万人 国内旅行者 年間5億人

主要な施策

活力と風格ある世界都市・東京の実現

東京の魅力を世界に発信

◆シティセールスの積極的な展開

- ◎オリンピック招致と連携し戦略的にシティセールスを展開
- ◎東アジアからの旅行者誘致に向けて観光情報を積極的に発信

◆観光情報の発信

- ◎外国人旅行者の国別のニーズに応じた観光情報の提供

◆コンベンション誘致活動の展開

- ◎企業系コンベンションの誘致
- ◎国際会議等をコーディネートする人材の育成

◆ビッグイベントと連携した東京の魅力発信

- ◎東京マラソン・オートバイレース等を通じた東京の魅力発信

観光資源の開発

◆美しい景観の形成

- ◎地域をあげた情緒ある街並みづくり

◆水辺空間の魅力向上

- ◎船で結ぶ水辺の観光ルートを開発し周遊性を向上

◆東京フィルムコミッション

- ◎円滑なロケーション活動のための推進体制の構築

◆自然と調和した観光

- ◎多摩地域: 水系・街道・鉄道など人の流れに沿って旅行者誘致に向けた連携を促進
- ◎島しょ地域: 年間を通じて集客できる滞在型観光の促進

◆産業観光の推進

- ◎首都東京の産業の魅力を旅行者へアピール

◆歴史・文化・スポーツ等を活かした観光

- ◎祭りや風物詩など地域の伝統・文化を観光資源として積極的に活用
- ◎上野公園を魅力ある文化・観光拠点として再生

◆観光まちづくりの推進

- ◎地域の魅力を地域で発掘

受入体制の整備

◆交通アクセスの整備

- ◎羽田空港の国際化を推進
- ◎横田基地の軍民共用化及び横田空域の返還

◆温かく迎える仕組みづくり

- ◎オリンピック招致に向けた東京ホスピタリティの形成

◆ひとりでもまち歩きが楽しめる都市の実現

- ◎迷わない東京に向け、案内サインの標準化を推進

◆観光ボランティアの活用の推進

- ◎ビッグイベントにおける観光ボランティア活用の促進

◆海外青少年の教育旅行受入の促進

- ◎異文化体験やスポーツ等の学校交流の積極的な推進

◆旅行者の安全確保

- ◎外国人旅行者に対する防災情報の提供等

現行プラン以前からの取組	現行プラン策定後のこれまでの取組	
<p>東京の魅力の世界に発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光プロモーションの展開 海外でプロモーションを実施し、海外旅行事業者による東京向けツアー商品開発を促進(平成21年度までに欧・米・豪9か国19都市で実施) また、メディアや現地旅行エージェンツ向けに東京の情報を提供するためのセミナーを実施 ○ウェブサイト「東京の観光」による情報発信 ウェブサイトを通じて、8言語・9種類で東京の観光情報を発信(平成21年度アクセス数:2,757万件) ○コンベンション誘致活動の展開 東京観光財団を通じて誘致資金助成、開催資金貸付等を行い、国際会議を積極的に誘致(平成20年の東京開催国際会議:150件〔世界第6位〕) ○東京国際アニメフェア 国際的な商談の場を設定するほか、国内外にアニメの魅力を発信(平成21年度来場者数:4日間で13万2,492人) ○「東京大マラソン祭り」を通じた観光振興事業 東京マラソンの開催に合わせて、臨時観光案内所を設置するほか、マラソンコースのマップを作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○アジアからの旅行者誘致事業 【実行プログラム事業】 今後も観光客の増加が見込まれるアジア諸地域において、東京観光をPRするパンフレット等を作成するとともに、主要雑誌等に東京のPR広告を掲載 ○海外の都市との観光交流 【実行プログラム事業】 東京の認知度をさらに向上させるため、ロンドン市の協力を得て、相互の観光PRを展開(都庁舎とロンドン市庁舎においてパネル展示等を実施) ○東京在住外国人リポーター事業 【実行プログラム事業】 在京大使館職員等に東京の観光スポットを紹介するとともに、都の外国人旅行者向け施策について意見聴取 ○東京観光DVD・ガイドブックの作成 東京の観光の多様な魅力を美しい映像等を通して、多言語で紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンベンション関連事業 【一部実行プログラム事業】 ホテル、会議施設等の実務者を対象に、企業系会議や国際会議の誘致スキルの向上を図る講座を開催(3日間、年2回)。 また、コンベンション誘致をめぐる海外他都市との競争を勝ち抜くため、主催者にとつての東京開催のインセンティブの充実を図る。
<p>観光資源の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多摩・島しょ地域の観光振興 多摩地域・島しょ地域の観光振興事業を支援するとともに、小笠原諸島・御蔵島におけるエコツーリズムを推進 ○水辺の観光資源化の推進 水辺の広域観光マップの作成や水辺イベント団体の連携を支援 ○地域における観光まちづくりの支援 アドバイザーの派遣等により、地域による主体的な観光振興の取組を支援 ○広域的な観光まちづくりの展開 浅草・両国地域及び青梅・奥多摩地域の2地域において、区市町村の枠を超えた広域的な観光まちづくりの取組を支援 ○産業を活かした観光ルート整備支援 伝統工芸の見学施設整備など、産業を活かした地域の観光ルート開発の取組を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化資源を活用した外客誘致促進 【実行プログラム事業】 文化の魅力を活かして外客誘致を促進するため、文化資源の観光資源化調査や文化体験プログラムの試行を実施 ○江戸東京・まちなみ情緒の回生 【実行プログラム事業】 江戸東京の情緒を伝えるまちなみを保全・創出する地域の取組を支援 ○広域的な観光まちづくりの新たな展開 【実行プログラム事業】 新たに「品川・大田地域」及び「あきる野・日の出、檜原地域」の2地域において、広域的な観光まちづくり支援を展開 ○島しょ地域への外客誘致促進 【実行プログラム事業】 外国人旅行者を新たなターゲットに誘致を促進するため、大島および八丈島を対象に旅行者ニーズ調査やモニターツアーを実施 ○東京フィルムコミッション事業の展開 ロケ地紹介などを行う「東京ロケーションボックス」(平成13年設置。平成20年観光部に移管)に加え、アドバイザー派遣等により地域のフィルムコミッション設立を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○アニメ観光資源の開拓 【実行プログラム事業】 アニメ情報(アニメに描かれた場所、イベント、見学可能制作会社等)をリスト化 ○歴史的建造物等を活かした観光まちづくり 【実行プログラム事業】 歴史的建造物等の観光資源周辺地域で行われるエリア整備等ハード事業や当該観光資源を活かしたPRなどソフト事業に対して、総合的に支援を展開 ○水辺の観光資源活用促進事業 【実行プログラム事業】 水上コンサートなど集客力のあるイベントの実施や川面に開いたオープンカフェなど、水辺イベント実施主体が実施する先駆的な取組を支援
<p>受入体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光案内所の運営 ・都内3箇所で見学情報センターを運営(平成21年度利用者:85万0,658人) ・区市町村や宿泊施設等の窓口を活用し、観光案内窓口を運営(平成22年7月現在:155箇所) ○歩行者用観光案内標識の整備 旅行者が多く訪れる地域や東京マラソンコース沿いなどに、ピクトグラムや多言語による分かりやすい案内標識を設置 ○ウェルカムボードの設置 旅行者に歓迎のメッセージを伝えるボードを設置 成田空港2箇所、羽田空港4箇所、京成上野駅1箇所 ○ウェルカムカードの作成・配布 東京を訪れる旅行者に観光情報等を提供(平成21年度作成・配布部数:ハンディガイド130万部、ハンディマップ124万部、エリアマップ85万部、旅の安心ガイド150万部) ○観光ボランティアの活用 都内10コースのガイドサービスを実施するほか、国際会議等にボランティアを派遣(平成22年4月1日現在登録者:379人) ○宿泊施設のバリアフリー化の推進 高齢者・障害者等が観光やビジネスのために、都内宿泊施設を安心かつ円滑に利用できるよう、バリアフリー化を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○案内サイン標準化指針の策定 【実行プログラム事業】 旅行者にとってわかりやすい案内標識の整備を促進するため、表記方法、景観への配慮等に関する標準化の指針を策定 また、鉄道・地下鉄・道路等に設置されている案内板工作物等が及ぼす、まち歩き・観光地への満足度調査を実施 ○外国語メニューの作成 【実行プログラム事業】 飲食店が簡単に外国語メニューを作成することが可能となるよう「外国語メニュー作成支援ウェブサイト」を構築し、飲食店における多言語メニューの普及拡大を図る。 ○観光路線バス(下町ルート)の運行開始 【実行プログラム事業】 ・経路:東京駅～日本橋～秋葉原～上野～合羽橋～浅草～両国 ・運賃:大人200円 子供100円 ・開業に合わせ、運行ルート周辺の「まち歩きマップ」を多言語で作成 ○「全国観光PRコーナー」の開設 東京都と全国の自治体が連携して、日本全国各地の魅力をPRする「情報発信拠点」として都庁舎内に開設。全国各地の観光パンフレットを常設するほか、各自治体が観光・物産のPRイベントを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ひとり歩きサイン計画 【実行プログラム事業】 外国人旅行者や障害者、高齢者が安心して東京の観光を楽しめるように、ピクトグラム(絵文字)や多言語で表記した観光案内標識を設置。 (歩行者用観光案内標識を含めて平成21年度までに765基設置) また、「案内サイン標準化指針」に基づき、区市町村や公共交通事業者等に対して、案内サインの統一化を周知・促進していく。 ○海外青少年の教育旅行受入促進 【実行プログラム事業】 若年層の交流拡大により国際相互理解の促進を図るとともに、将来のリポーターを育成し、外国人旅行者の誘致を促進 ○羽田空港国際線ターミナル東京観光情報センター設置 羽田空港の再拡張・国際化に合わせ、観光情報センター羽田空港支所を新国際線ターミナルビルへ移転

【備考】 ・ **【実行プログラム事業】**とは、「10年後の東京」への実行プログラム(平成19年12月、都が「10年後の東京」の実現に向けて、取組を加速化する3か年のアクションプランとして策定)2008～2010のいずれかに位置付けられた、集中的・重点的に取り組むべき事業等を指す。